

三心を磨く

学校だより No. 7

令和4年9月16日（金）発行

須坂市立東中学校

文責：（教頭）

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

◇◇◇9月の校長講話より◇◇◇

おはようございます。東祭まであと3週間あまりとなりました。月曜日にはステージバックの全校制作が行われ、いよいよ準備が佳境に入ってきました。何よりも大事なのは当日に向かうプロセスです。1人ひとりの役割をしっかりと果たす中で、想いを形にして飛躍を目指し、全校の絆をより確かなものにして欲しいと思います。

さて、画面の記事は、8月23日（火）に発行された朝日新聞の夕刊です。長野県内では発行されておらず、東京など首都圏周辺で発行されています。6月27日の活動以降の様子も含めて記事にいただきました。詳しい内容は、昇降口の掲示を読んでください。夕刊発行から3日後、学校に現金書留の封筒が1通届きました。そして6日後の29日にも3通の現金書留が届きました。いずれも、寄付金とともに皆さんの取組への励ましのメッセージが添えられていました。そのうちの1通を紹介します。

8月23日の朝日新聞夕刊を読ませていただきました。東中学校の皆さんの活動を知りました。色々大変な事もあったことと思いますが、がんばってらっしゃる様子を知り、私も何かお役に立てないかと思い、気持ちを送らせていただきたいと思います。皆様におかれては、達成感、充実感を体験されて、中学校生活の良い思い出になりますよう、10月2日のコンサートが成功されますよう心から祈っております。あともうすこしです。がんばってください。

中学時代が一番楽しかった70代おばさんです。

中国の「大学」という書物にある言葉です。まず、先生からお聞きしたことを紹介します。少し前に、京都に出かけ、比叡山延暦寺を訪ねたそうです。苔むした土、生い茂る古木に囲まれた参道の坂道を楽しく歩いていたのですが、この場所を通り過ぎようとしたときに、ご家族が驚いた声を上げたそうです。

先生は最初、なぜご家族が驚いたのか全然わからなかったそうです。皆さんはこの写真を見て、何か驚くようなところが在りますか？先生は、ご家族が指さす方向を見て、ようやくその理由がわかると同時に、同じように大変驚いたそうです。驚いた理由は、ここです。拡大します。遠く離れた京都の山奥、比叡山延暦寺の参道脇にひっそりと立つ、東中学校と刻まれた「昂」の記念碑。確かに驚きますね。

今日のテーマ

心不在焉	（心ここに在らざれば）
視而不見	（視れども見えず）
聴而不聞	（聴けども聞こえず）
食而不知其味	（食らえども其の味を知らず）

心がうわの空で、今ここに存在していなければ、
視ていても実際には見えず、
聴いていても実際には聞こえず、
食べても実際には味が分かりません



遠く離れたところに住み、東中学校と縁もゆかりもない方々が、皆さんの取組に心を動かされ、共感し応援してくださっていることのありがたさを心に深く刻みたいと思います。

さて、今日は、「心ここに在らざれば、視れども見えず、聴けども聞こえず、食らえどもその味を知らず」をテーマに話します。「心がうわの空で、今ここに存在していなければ、視ていても実際には見えず、聴いていても実際には聞こえない。食べても実際には味がわからない」という意味の言葉です。

さて、参道を歩いていた 先生は、ご家族が驚き、自分も驚くまでの間、「視れども見えず」の状態だったと言えます。参道を歩いていた時、「昂」の記念碑は、確かに 先生の視界には入っていたはずですが、心はそこになかったため、その前をただ通り過ぎようとしていたということでしょう。ご家族の気づきによって 先生の心は「昂」の記念碑に向けられ、その存在を認識したのです。 先生がすごいのは、その後です。驚きから探究へと心が動き始めたのです。

旅行から帰った 先生は、過去の資料を調べます。「昂」の記念碑はいつ、なぜ比叡山に立てられたのか。そして探し当てます。平成6年度卒業記念文集に「昂」の記念碑日の写真があったのです。比叡山延暦寺を訪れ、早朝座禅を組んだ修学旅行隊は、須坂の花「レンゲツツジ」を記念植樹し、その証に「昂」の祈念碑を建てたのです。先ほどの写真と全く同じですね。ちなみに平成6年度は、旧校舎からこの校舎を建てるために全面改築が始まった年です。

先生からこの話を聞き、そういえば、似たようなものが校内にもあったことを思い出しました。どこにあるかわかりますか？1年1組から中庭に出たところにありますね。修学旅行で南禅寺からいただいた楓の木を植樹した記念碑です。楓の木は残念ながら2年前に枯れてしまいましたが、平成12年度の3年生の思い出の記念碑です。ちなみに、平成12年度は、無伴奏混声四部合唱・アカペラの校歌が、東祭で初めて披露された年です。また、当時取り組んでいたコスモス街道が「全国花いっぱいコンクール」で環境庁長官賞を受賞し、その記念碑を建てた年でもあります。

先生の話を受けて、校舎改築当時の東中の様子を知りたいと思い、平成9年に発行された「東中の四十年」の冊子を久しぶりに開いてみました。できたての新校舎、玄関周辺です。輝いていますね。

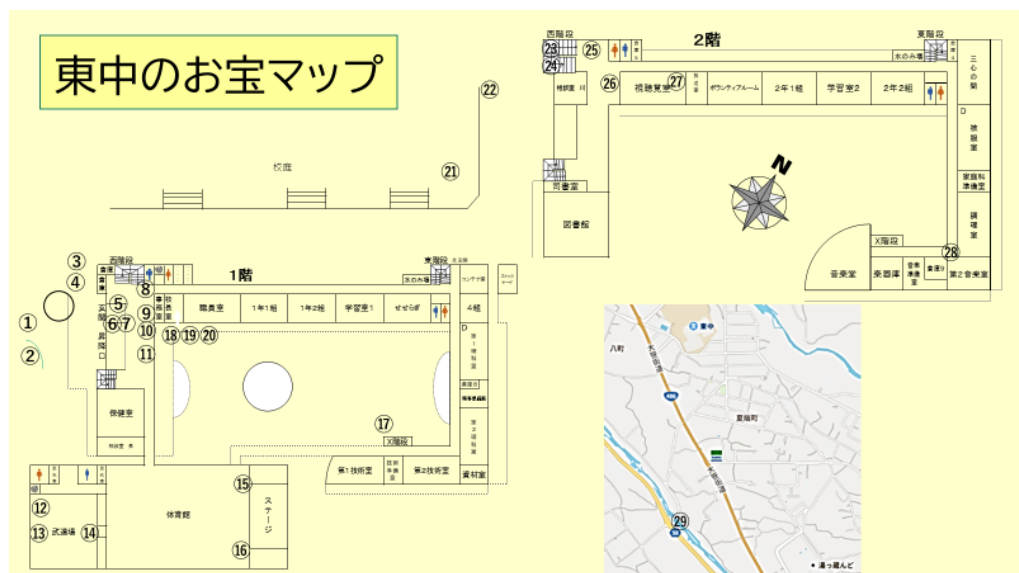
校内の様々な場所、特別教室などの写真です。以前、この見開きを見たときは全く気づかなかったのですが、今回、「あっ！」と気づいたことがありました。皆さんわかりますか？拡大しますね。

この写真からわかることは、新校舎になったときからプレイエルのピアノは、階段下のホールに置かれていたということです。それからよくわからないかもしれませんが、ピアノ本体の側板と呼ばれる場所に、横向きにずーっとついている傷跡は、この時点でもうあったということです。

この冊子には、創立10周年、20周年、30周年の記念事業のページもありました。その時々、今も残る記念の品々が東中に寄贈されていたことがわかります。皆さんは、東中のHPでこの一覧を見たことがありますか？いわば、東中のお宝の一覧です。

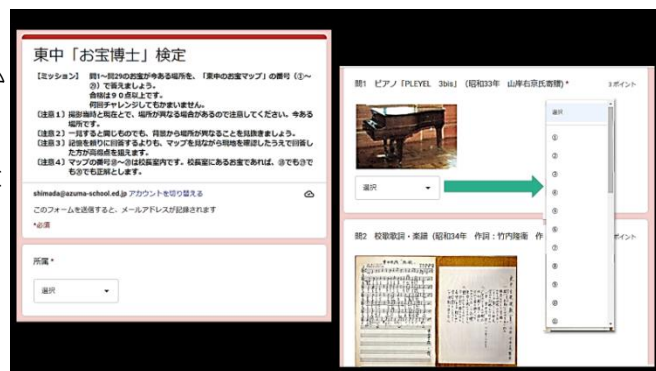


先日思い立って、校内を歩き回り、どのお宝がどこにあるのかを確認し、「東中のお宝マップ」としてまとめてみました。HPに載っていない物も含めて、全部で29のお宝のある場所を示したマップです。皆さんは、①～②9に何があるのかわかりますか？毎日その前を通っているお宝もたくさんあるはずですが、お宝の存在が「視れども見えず」になっているかもしれません。



そこで、こんな検定を作りました。東中「お宝博士」検定です。東中生である以上、どのお宝がどこにあるかを知ってもらいたいものです。検定の答え方は簡単です。問1のプレイエルのピアノであれば、選択肢として①から②9が出てきますので、お宝マップと照らし合わせて、プレイエルのピアノが置いてある場所を選択してください。全部で29問。100点満点で、合格は90点以上です。何回チャレンジしてもかまいません。

ちなみに、教頭先生は、1回目に記憶だけを頼りに答えたところ76点でした。でもその後、実際に校内を歩き回り、2回目には見事、100点でした。校長講話のあと、「東中のお宝マップ」と「お宝博士検定」を校長講話クラスルームに投稿しますので、しっかりとその目で確かめて検定にチャレンジしてください。



先週の日 (水)、資金集めグループ企業訪問・募金チームの3年生が、長野市にある信濃教育会で職員の方々にプレゼンをし、プレイエルのピアノ修復の協力を呼びかけてきました。テレビニュースや新聞で見た人もいでしょう。その際、職員の1人、昭和47年度の東中卒業生である



先生が、応援のメッセージを語ってくださいました。その一部を紹介します。竹前先生のエールは、今日のテーマ「心ここに在らざれば、視れども見えず、聴けども聞こえず、食らえどもその味を知らず」に通じると思います。プレイエルのピアノが代表するように、身の回りの東中のお宝を、ただ物として見るのではなく、心の目で、その向こう側にある、見えないけれど確かにある先人たちの思いもしっかりと汲み取れる東中生であって欲しいと願っています。

先生が、応援のメッセージを語ってくださいました。その一部を紹介します。竹前先生のエールは、今日のテーマ「心ここに在らざれば、視れども見えず、聴けども聞こえず、食らえどもその味を知らず」に通じると思います。プレイエルのピアノが代表するように、身の回りの東中のお宝を、ただ物として見るのではなく、心の目で、その向こう側にある、見えないけれど確かにある先人たちの思いもしっかりと汲み取れる東中生であって欲しいと願っています。

